

特集「IoT活用のためのインターネットと運用技術」の編集にあたって

今泉 貴史^{1,a)}

センサをはじめとする多様な機能を実空間の様々な「モノ」に付加してインターネットに接続し活用するIoT (Internet of Things) の普及が加速しているが、その背景には、デバイス技術の進歩だけでなく、ネットワーク・クラウド環境のさらなる発展やデータの高度な活用を支援するAI技術の進展などがあり、その役割は非常に大きなものとなっている。インターネットは、IoTの活用を支える基盤の役割を果たすのはもちろん、インターネット自身から得られる様々なデータを活用しつつ、今後ますます複雑化するとともにより高度な要求が求められるネットワーク運用管理技術の研究開発も重要となる。また、AI技術はネットワーク運用管理にも今後大きく寄与していくと考えられるが、その一方で、ネットワーク設計構築や後継者育成といった人間の知能がなすべき高次の役割は依然として必要であり、継続して維持し続ける必要がある。

本特集号では、これからのIoT社会に向けた課題や取り組みについて、今後のインターネット構築運用技術の研究開発に寄与する最新の研究/開発/実験/運用等に関する論文を掲載している。本特集号は、インターネットを始めとするネットワークシステムに関連する様々な運用技術の発展に寄与することを目指し、インターネットと運用技術 (Internet and Operation Technology : IOT) 研究会が中心となって企画・編集を行った。本特集号には13編の論文が投稿され、15名の委員からなる特集号編集委員会を中心に査読が進められた。編集委員会には、2018年末に「IoTとIOT (IoTとインターネットと運用技術)」というテーマで開催された第11回インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2018) のプログラム委員経験者を迎えることにより、テーマの連続性の強化とIOTS2018の発表を元にした論文の投稿にもつながっている。

最後に、本特集号を企画する機会を与えていただくとともに、その実施にご尽力、ご支援いただいた学会関係者各位に感謝するとともに、本特集号に興味を持ち優れた論文をご投稿いただいた著者の方々と、多忙な中、多数の研究成果を綿密に精査し、より良い論文にすべく有益なコメン

トをご提供いただいた査読委員ならびに編集委員の方々に深く感謝する。また、編集作業をサポートいただいた副委員長および学会事務局の皆様へ感謝する。本特集が読者への有益な情報となり、今後の情報通信技術発展の一助となることを期待したい。

「IoT活用のためのインターネットと運用技術」特集号編集委員会

- 編集委員長
今泉貴史 (千葉大学)
- 編集副委員長
敷田幹文 (高知工科大学)
- 編集委員 (五十音順)
池部 実 (大分大学)
石橋勇人 (大阪市立大学)
大谷 誠 (佐賀大学)
柏崎礼生 (国立情報学研究所)
北口善明 (東京工業大学)
坂下 秀 (アクタスソフトウェア)
佐藤 聡 (筑波大学)
土井裕介 (株式会社 Preferred Networks)
中村素典 (国立情報学研究所)
西村浩二 (広島大学)
野呂正明 (富士通株式会社)
宮下健輔 (京都女子大学)
山井成良 (東京農工大学)

¹ 千葉大学
Chiba University

^{a)} imaizumi_takashi@faculty.chiba-u.jp